

## 第3学年1組 体育科学習指導案

【日時】令和6年7月23日(火) 9:20~10:05 【場所】多目的室1・2 【指導者】前山 純平

### 本授業の参観の視点

児童がキャッチング・ザ・スティックで回数を伸ばすため、運動の視点を使ってこれまでに学習した動きと比べ、チームで協力しながら、体を移動させたり、物をつかんだりする動きを高めていく姿をご覧ください。

#### 1 単元名 キャッチング・ザ・スティック (A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動)

#### 2 単元の構想

##### (1) 単元について

中学年の体づくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、様々な基本の動きに加えて、さらに多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする。様々な基本的な体の動きの幅をさらに広げていくとともに、動きの質を高め、高学年の体づくり運動の学習につなげることが求められる。

また、運動を楽しく行うために、友達の動きを見たり、話し合ったりしながら自己の課題を見付け、解決のための活動を工夫する。その工夫を友達に伝えるとともに、体づくり運動に進んで取り組み、決まりを守り誰とでも仲良く運動をし、友達の考えを認め、場や用具の安全に気を付けることなどをできるようにすることも大切である。

本単元では、日本レクリエーション協会が考案したチャレンジ・ザ・ゲームの中の1つであるキャッチング・ザ・スティックを行う。キャッチング・ザ・スティックは1チーム5~6名で、3~4名がスティックをもって横一列に並び、トントンのリズムに合わせてスティックを突いたあと、パッと離して素早く右へ横移動し、何回続けてキャッチできるかを競うゲームである。その中で、チームで協力して、リズムよく横移動したり、スティックをつかんだりするといった、体を移動する動きや用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。

##### (2) 児童について

- ・ 本学級の児童は、97% (33名/34名) が「体育の授業が好き」だと答えている。これまでの体育の学習で、運動との出会いの場で面白さを共有し、探究テーマを児童とともに設定して活動してきた。自分であてを決めて書く活動は3年生になって始めたばかりでもあり、運動の楽しみ方を広げていくようなあてを立てることができる児童は少ない。【学び方の状況】
- ・ 物をつかむ動きについては、全児童が日々の生活の中で何かしらの経験をしている。体育の学習でかけっこ・リレーを行った際には、走りながらバトンを渡したりつかんだりすることについて学習している。しかし、チームみんなでタイミングを合わせて渡したり取ったりした経験は少ない。キャッチング・ザ・スティックを行ったことのある児童もいない。【運動や遊びの経験と理解】
- ・ 事前のアンケートより、本学級の児童は、85% (29名/34名) が「体づくり運動が好き」と答えている。その理由として「体がすっきりするから」や「体のいろんな部分を使うから」、「体がリフレッシュする感じだから」などを挙げている。【楽しさ体験】
- ・ 「キャッチング・ザ・スティック」について「楽しそう」だと答えた児童が多かったが、「やったことがないから不安」や「倒しそうで怖い」「揃えることが難しそう」「失敗して文句を言われるかもしれない」といった経験不足やチームでの言葉かけについて不安を抱く児童もいる。【阻害要因】
- ・ 3年生のかけっこ・リレーの学習で、バトンを「つかむ」動きに取り組んでいる。しかし、バトンパスのタイミングには目が向いていたが、バトンをつかむという動き自体には目が向いていない状況があった。また、リズムダンスの学習においてリズムに乗って「歩く」学習に取り組んでいる。しかし、横に移動する動きを児童が「歩く」と捉えているかについては疑問が残る。【技能の習得状況】
- ・ 本単元を通して、児童ができるようになりたいことは「10回以上できるようになりたい」「記録を更新していきたい」「チームのみんなで協力したい」「スティックを倒さないようにしたい」「倒れそうなスティックをすぐにつかめるようになりたい」などである。【児童の願い】

##### (3) 指導について

- ・ 楽しみながら、動きを高めることができるように、チャレンジ・ザ・ゲームの中の1つであるキャッチング・ザ・スティックを行う。記録を伸ばすためには、チーム内で声をかけ合い、息を合わせるチームワークが大切である。友達とともに目標を設定し、挑戦して楽しく競技をする中で、動きに関しても友達と試行錯誤しながら、高めていくことをねらいとしている。【単元設定の意図】
- ・ 試しの活動を行った後、「何が面白かった」と問うことで、運動の面白さを共有する。それに紐付き

た探究テーマを決めることで、課題解決に向かうための方向性を共有する。【運動との出会わせ方】

- 活動経験の少ない児童や技能習得が阻害要因となっている児童がスティックを扱いながら楽しめるように、1人1本以上のスティックを準備し技能の習得ができるようにする。【知識及び運動の習得】
- 正式ルールでは、10名1チームで行うが、成功体験を積むことやチーム内の活発な交流を狙い、1チーム5～6人で行う。メンバーについては、普段の活動の様子を基に教師が決める。【チーム編成】
- チームの実態に応じて学習を進めるために、活動中の試技の時間、練習の時間を各チームに委ねる。ただし、緊張感をもって試技に臨めるように、試技は1時間に3セットまでとする。【活動の工夫】
- 準備にかかる時間を少なくし、「歩く」「つかむ」という動きを高めることに集中できる環境をつくるために、チーム毎の活動範囲を設定する。活動範囲を制限することでチームでの練習や交流をしやすくするだけでなく、他チームとの接触を無くし安全に活動できるようにする。【場の設定】
- 「やったことがないから不安」や「失敗して文句を言われるかもしれない」と感じている児童も達成感を味わうことができるように、称賛の言葉かけを意識的に行っていく。教師が、頑張りやできたこと、考えたことを称賛するだけでなく、友達同士で言葉をかけ合っていく良さに気付くことができるよう、できているチームを取り上げ、価値付けをする。【教具の工夫と運動が苦手な児童への配慮】
- 安全に活動するため、スティック・相手・周りを見て活動するよう指導をする。【安全面への配慮】
- 動きと運動の視点よりキャッチング・ザ・スティックを整理した(表1)。これにより、児童が自己の課題を解決するための運動の視点が絞られ、考えるべきことが明確になり、より探究的な学びに誘うことができる。できたことを称賛し、問いかけながら動きに応じた運動の視点をを用いて価値付けていく。【思考力・判断力・表現力等の育成】

表1 動きと運動の視点による「キャッチング・ザ・スティック」の整理

動き	歩く(右に移動する)	つかむ
時間性	速さ リズム タイミング 数	速さ リズム タイミング 数
空間性	位置 距離 高さ 向き 目線 姿勢	位置 距離 高さ 目線 姿勢
力動性	動きの大きさ	力の大きさ 動きの大きさ
共愉性	チームワーク 運動	

- 児童が運動同士のつながりを感じ、同じ動きや運動の視点に気付くことができるように、教師が問いかけながら動きの価値付けを行ったり、「リズムダンス」や「かけっこ・リレー」の単元の掲示物を用いたりする。【思考力・判断力・表現力等の育成】
- ポートフォリオシートにその日の活動を振り返り、次時にしたいことを記すように促すことで、次時への見通しをもち、めあてをもった活動ができるようにする。また、児童が運動を「する」ことの楽しさを感じ、学び方の定着を図るために、一生懸命活動する姿、一緒に仲良く活動する姿、工夫して安全に活動する姿を称賛する。【主体的に取り組む態度の育成】

#### (4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表2である。

他者の発想との回遊を目指すために、試技を行う際には、2つのチームが一緒に行うようにする。お互いに審判をし合うだけでなく、試技後にアドバイスを送り合うことで、自分たちだけでは気付かなかった視点を取り入れながら活動できるようにする。

表2 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「同単元・領域」	体育科「体ほぐしの運動」 領域「体づくり運動」	・自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えようとしている。【思考力、判断力、表現力等】	・運動とストレッチを通して、一緒に仲良く、工夫しながら、楽しんで活動している。
ステージB 「同教科」	体育科「リズムダンス」 領域「表現運動」	・曲のリズムを感じ、自分なりの乗り方で自由に踊ることができる。【知識及び技能】	・リズムに乗って、へそを中心とした体全体を使って自由に踊っている。
	体育科 これまで学習した単元	・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】	・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたっている。

ステージC 「他教科」	道徳科 「C 親切、思いやり」	・相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何かを考えて、進んで親切な行いをしようとする意欲を高める。 【道徳的実践意欲】	・相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何かを考えて、温かい言葉かけをしている。
	音楽科 「拍ののってリズムをかんじとろう」	・互いの音を聴き合いながら、拍ののって合奏する。 【知識及び技能】	・速さをそろえたり、聴き役をつくったりして、リズムがそろおう工夫を考えている。
ステージD 「実生活・実社会」	国スポ デモンストレーションスポーツ チャレンジ・ザ・ゲーム	・10月に佐賀県で行われる国スポ・全障スポへの興味・関心を高める。 【学びに向かう力、人間性等】	・10月に佐賀県で行われる国スポ・全障スポへの興味・関心を高めている。
	佐賀県教育委員会 保健体育課主催 スポーツチャレンジ	・佐賀県内の小学生が仲間と共に運動に親しむ契機として実施されているスポーツチャレンジへの興味・関心を高める。 【学びに向かう力、人間性等】	・仲間と共に、スポーツチャレンジへの興味・関心を高めている。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

ゲームを楽しく行う方法を知り、自分やチームの、体を移動する動きや用具を操作する動きを工夫しながら、楽しみ方を広げていくようにする。

#### (2) 評価規準

ア キャッチング・ザ・スティックの行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、「歩く」や「つかむ」の動きの質を高めたりできるようにする。 【知識・運動】

イ 自分やチームの課題に気付き、必要な動きを意識しながら活動を工夫したり考えたことを友達に伝えたりしている。 【思考・判断・表現】

ウ 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をし、友達の考えを認め、場や用具の安全に気を付けて活動しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

### 4 単元の指導計画（全4時間 本時3／4時間目）

時	主な学習活動(○)	指導上の留意点(・)	評価規準(◆)【観点】	回遊
1	○SAGA2024 国スポ・全障スポとの関連を知る。 ○単元や学習の見通しをもつ。 ○キャッチング・ザ・スティックをやってみる。 ○面白さに紐付いた探究テーマを決定する。	・SAGA2024 デモンストレーション大会で行われた種目であることを知らせ、SAGA2024 への関心を高める。 ・全員が楽しめるように、学習の約束や進め方を説明する。 ・どんなことをしていたかを問い、児童の言葉からキャッチング・ザ・スティックの面白さを共有する。 ・児童が感じた面白さに紐付けて、探究テーマを決定する。	◆キャッチング・ザ・スティックの面白さに触れ、その行い方を理解している。 【知・運】 ◆場や用具の安全に気を配りながら、用具等の準備や片付けをしようとしている。 【主】	B C D 他者
2	○チームで協力し、積極的にゲームを楽しむ。 ○連続でキャッチし続けるために必要な、自分やチームの課題について考える。	・児童が運動することの楽しさを感じ、学び方の定着を図るために、一生懸命活動したり、安全に気を付けて活動したりしている姿を称賛する。 ・動きに対する意識が高まるよう称賛したり、問いかけたりする。 ・自分のチームの動きや課題を話題として、チームでの対話が生まれ始めたところで、作戦ボードを準備し、チームで共有できるようにする。	◆キャッチング・ザ・スティックに取り組むことで、体を動かす心地よさを味わっている。 【知・運】 ◆自分やチームの課題に気付き、友達に伝えている。【思・判・表】 ◆規則を守って取り組み、誰とでも仲良く活動しようとしている。 【主】	A B C D 他者
3 本時	○探究テーマに紐付いた自分やチームの課題を解決しながら回数を伸ばしていくことを目指す。	・課題となる動きに応じた運動の視点をを用いて、問いかけたり価値付けたりしていく。 ・課題を解決し、回数を伸ばすことができたかを問い、探究テーマに迫ることができた児童を称賛する。	◆友達と協力して、スティックをつかんだり、歩いて体を移動させたりしている。 【知・運】 ◆自分やチームの課題に気付き、必要な動きを意識しながら活動を工夫し、考えたことを友達に伝えている。 【思・判・表】	A B C D 他者
4	○スポーツチャレンジについて知る。	・佐賀県教育委員会保健体育課が主催するスポーツチャレンジについて、関心をもつように紹介する。	◆友達の考えを認め、仲良く活動している。 【主】	A B C D 他者

5 本時の指導 (3/4)

(1) 指導目標

スティックを何回続けてキャッチできるかを楽しむ中で、自分やチームの課題に気付き、必要な動きを意識しながら、楽しみ方を広げていくことができるようにする。

(2) 評価規準

イ 自分やチームの課題に気付き、必要な動きを意識しながら活動を工夫したり考えたことを友達に伝えたりしている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ( )	教師の働きかけと形成的評価 (◆)												
<p>1 めあての確認をし、チームで共有する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最高記録を出そう!</li> <li>・みんなで声を出して数えよう。</li> <li>・横に動くときぶつからないように気を付けよう。</li> <li>・スティックを倒さないように、素早くキャッチしよう。</li> <li>・リズムよく続けよう。</li> </ul>	<p>1-(1) 集合し、準備ができたチームから練習をして良いこととすることで、探究テーマへと自然と向かうことができるようにする。</p> <p>1-(2) 本時のめあてを共有することで、チームとして学びの見通しをもつことができるようにする。</p> <p>1-(3) <u>前時までの活動で出した動きを整理することで、課題解決の方法を具体的にイメージすることができるようにする。(A)</u></p>												
<p>【探究テーマ】工夫したり作せんをたてたりして、何回れんぞくキャッチできるか</p>													
<p>2 活動する。(30分)</p> <table border="1" data-bbox="164 896 782 1025"> <thead> <tr> <th>作戦・練習 タイム</th> <th>試技 ①</th> <th>作戦・練習 タイム</th> <th>試技 ②</th> <th>作戦・練習 タイム</th> <th>試技 ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>【ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1チーム5人または6人</li> <li>・右に移動する</li> <li>・全員で数える</li> <li>・並び替えOK</li> <li>・チャレンジは審判としてお互いに見合いアドバイスする</li> <li>・スティックを倒したら終了</li> <li>・チャレンジ(試技)は3セット</li> <li>・回数を記録しておく</li> </ul> <p>・最高記録が出ると嬉しい!</p> <p>・みんなで数えるとタイミングが合いやすかった。</p> <p>・失敗した後に声をかけ合おう。</p> <p>・みんなで横に動く幅を合わせる方法があるといけど…。</p> <p>・スティックをまっすぐになると倒れにくい。</p> <p>・タイミングが速くなったり遅くなったりすると失敗しやすくなるから、みんなで合わせよう。</p> <p>・「トン、トン」のタイミングがみんな揃ったら回数が増える。</p>	作戦・練習 タイム	試技 ①	作戦・練習 タイム	試技 ②	作戦・練習 タイム	試技 ③							<p>2-(1) <u>安全な活動を意識できるように、約束を確認し、もしぶつかった場合にはどうするか尋ねる。(BC)</u></p> <p>2-(2) <u>動きと運動の視点に触れることができるよう「歩く(右に動く)」「つかむ」など考えてしている児童を、運動の視点を使いながら称賛する。(B)</u></p> <p>2-(3) <u>自分やチームの特徴や課題をチームカードで共有できるようにすることで、チームで協働しながら動きを高めていくことができるようにする。(他者)</u></p> <p>2-(4) <u>よい動きを見付けたり、アドバイスをしたりできるように、試技をする際には他のチームと互いに見合うようにする。(他者)</u></p> <p>◆ <u>自分やチームの課題に応じた動きを考えながら、ゲームを行っているか。(観察・発言)【思・判・表】</u>          B 自分やチームの課題に応じた動きを考えながら、ゲームを行っている。          C→ 何が課題なのかを確認し、解決に向けての動きや運動の視点を一緒に考える。</p>
作戦・練習 タイム	試技 ①	作戦・練習 タイム	試技 ②	作戦・練習 タイム	試技 ③								
<p>3 本時の振り返りを行う。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最高記録が出たときに、みんなで喜び合うことができ嬉しかった。</li> <li>・「トン、トン」のかけ声が揃うと記録が出やすかった。</li> <li>・声をかけること、スティックをキャッチすること、場所が入れ替わることが上手にできたら、回数が多くなる。</li> <li>・連続でキャッチし続けるために、チームで並び方を考えることも大切だった。</li> </ul>	<p>3-(1) <u>振り返りの観点を示すことで、「動き」を意識しながら振り返りをできるようにする。1回でも多くキャッチするために考えたことを称賛する。(B他者)</u></p> <p>3-(2) 児童が本単元での学びを振り返り、探究テーマに立ち返って次時の課題を見付け出すことができるように、ポートフォリオや動きと運動の視点に沿った振り返りを行う。</p>												